1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000469		
法人名	社会福祉法人ふじの里		
事業所名	グループホームふじの花荘		
所在地	山形県鶴岡市藤の花1丁目18-1		
自己評価作成日	令和 3年 11月 26日	開設年月日	平成 14年 3月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 12月 20日	評価結果決定日	令和 4年 1月 11日

(グループホームふじの花荘)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、旧藤島町の中心部に位置しており、月山や鳥海山が見渡せる緑豊かで環境にも恵まれている。事業所のテーマを昨年度に引き続き、『家庭的』『和やか』『穏やか』『笑顔』とし取り組んでいる。家庭的な環境の中で楽しく、自分らしく笑顔溢れる日々を過ごせる様に、職員は入居者の話しに耳を傾け、入居者一人一人の思いや意向に寄り添い、ケアを通じて穏やかな時間を過ごして頂ける様に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「社会福祉法人ふじの里」の敷地内で南側に位置し、遠くには四季を通して月山や鳥海山が望まれ、春には藤の花が咲き誇る風光明媚に恵まれた環境にあるグループホームです。利用者はコロナ禍で地域社会での交流ができない状況の中でも、天気の良い日にはデッキに出て心地よい日差しを浴びながら景色を眺め、保育園の子ども達を見ては互いに手を振り合って元気をもらい、毎日穏やかな生活を過ごしています。職員は利用者の日課を大事にして、1日1回は笑って過ごせるような関わりを持ち、また明るく和やかな日常生活を保てるように寄り添い、安心して思いを話してもらえるような職員を目指して日々努力している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の1つに「地域交流を通して社会とのつながりを実践できるように支援する」と掲げ、常に意識できるよう事務室内、ホールに提示し、職員全員が共有、実践出来るように努めている。	理念について職員に対して研修や話し合いの場を持ち、職員一人ひとりが年間目標を立て実践に組み入れて再確認もしている。理念の笑顔で穏やかに生活ができるように、また利用者の希望を叶えられるように支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域行事、外出、ボランティアの受け入れを自粛している為、日常的な交流の実践が行なえていない現状ではあるが、旬の野菜が収穫されると届けて下さり交流を図っている。	近所の方や家族等・以前の利用者の家族等からも野菜などをもらい、コロナ禍ではあるが交流を続けている。法人全体の夏祭りなどにも参加し地域の方々との交流をしていたが、コロナ禍で中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談などは随時受け入れており、相談があればいつでも助言できるような体制を整えている。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議が開催出来ない状態であったが、全国的に新型コロナウイルス感染が減少傾向となってきた為、11月より開催再開となった。運営推進会議の中では入居者の生活の様子や事業報告を行なっている。	コロナ禍のため運営推進会議を休止していたが11月に開催し、事業計画や重点目標などの説明とともに利用者の生活状況や様子等も併せて報告している。参加メンバーから様々な情報や避難する際のアドバイスなどをもらい運営に活かしている。会議内容は家族等や職員にも周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議が開催出来ない状況であった為、文書や電話などで連絡を取り、入居者の様子や事業の報告を行ない、協力関係を築いている。	市担当者とは直接あつての相談等はできなかったが文書や電話で指導を受けており、コロナ禍前と変わらない関係を築いている。また同法人内に地域包括支援センターを配置しており、いつでも相談や指導が受けられる環境の中で、より良いケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>内部研修で、身体拘束・虐待防止についてウェブサイト等を取り入れながら勉強会を行なっている。勉強会で再認識したことや学んだことを意識しながら業務に取り組み、一人ひとりに合ったケアの実施に努めている。家族にも入所時に身体拘束について重要事項説明書で説明を行なっており、状況に合わせて身体拘束をせずに対応する方法などを説明し、随時、話し合いを行なっている。</p>	<p>玄関や非常口は施錠せず人感センサーのメロディーが流れ、確認できるようにしている。身体拘束や虐待防止等の研修は、ケース会議時に行っていたが現在は中断している。身体拘束等適正化のための指針が有り検討する委員会を設置することになっている。</p>	<p>身体拘束等の適正化のための「検討する委員会の定期的な開催」が義務付けとなっているため、早急な委員会の設置と対応策に期待したい。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束・虐待防止についての勉強会を行ない、虐待が見過ごされることがないように、職員間でもケアや声掛け方法の確認を行ないながら、生活の中での些細な変化に注意を払い、防止に努めている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所内部研修で、権利擁護について学ぶ機会を持ち、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解に努めているが、実際に活用している入居者はいない状況である。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に利用者や家族と面談を行ない、不安に感じていることや施設生活での希望を考慮しながら説明・対応するように心掛けている。また、入所申し込みや見学に来られた方にも書面を用いて丁寧な説明を心掛けている。解約については、同法人の特養ホームへ入所が主な理由となっている。特養ホームへ、これまでの生活の様子などについて情報提供することで引き続き、不安なく生活が送れるように努めている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、市が派遣する介護相談員の受け入れにより利用者の声や要望を届けてもらう事で運営に反映させているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の為、まだ実施出来ていない。家族へモニタリングやカンファレンスの機会を利用し、要望や相談がないか伺っている。また、利用者には、普段の会話の中で希望や要望等を伺いながら反映できるようにしている。</p>	<p>利用者の日常会話の中で季節を感じたり、テレビを見て旬の物が食べたいなどの要望や意見があった時は、献立に組み入れている。入浴して気分が良くなった時などに声がけし、思いなどを聞き出している。一人ひとりの希望等を連絡帳に記載し、職員共有を図りながら運営に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やケース会議等において、職員の意見や提案を話し合う機会を持つ事が出来ている。また、普段の業務においても、随時、意見交換行ないながら業務に反映させている。また、自己申告書を通して法人に対する要望や提案を挙げて運営に反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の仕事への取組みを常に監察し、会議での発言や研修等への参加、専門誌の定期購読、職員の希望を取り入れる事で、向上心ややりがいを持って働ける様に工夫している。職員の人員不足時には、業務内容の見直しや組み換えを行ない、業務過多にならないよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりが個別年間研修計画表を記入することで目標をもち、目標達成に向けて、内部・外部研修(自己研修含む)に参加できるように努めている。	内部研修は計画に基づき実施しているが、外部研修はコロナ禍でできない状況からオンラインを活用している。認知症ケアや身体拘束等の防止について視聴し、気づきや参考になることなどの感想を提出することで職員の質の向上に繋げている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	例年は、山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会の交換実習や同地域内にある施設との交流や情報交換を図っていたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の為、今年度も開催出来ていない。山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会庄内地区の研修もアンケート調査に留まっており、対面での交流は実施できていない。	町内にある4カ所の法人との交流を行っていたが、今はオンラインで情報交換をしている。交流での学びを得て、手足を使ったレクリエーションと軽快な音楽や歌も活用した結果、楽しさが倍増し身体機能維持にも繋がっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時や事前面接時に、本人や家族の要望や意向を十分に聞き取り、可能な限り在宅時の生活を継続して送れるように努めている。また、ケアマネを通して本人の情報等も確認している。サービス利用開始後は担当職員が中心となって本人に安心して過ごしてもらえるよう、随時、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時、事前面接時、契約時に家族の要望や意向、不安なこと等をしっかりと確認していくことで支え合っていく関係を構築していける様に努めている。また、サービス利用開始後はモニタリング時や来荘時等に家族の要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に応じて共同生活が可能か、必要としている支援は何かを探りながら、本人と家族の状況を踏まえ、必要に応じて他事業所の紹介やサービスについての情報提供を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが日常生活の中に希望や役割を持てるように、一方的な声掛けではなく、選択肢を設けるなど、本人の望む支援が出来るよう努めている。随時、入居者の希望や要望を伺い、寄り添いながら、職員も一緒に過ごしたり、手伝いなどをして頂く事で暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後は家族との連携を密に行ない、月に1回の一筆箋での状況報告や3カ月に1回のモニタリングなどで本人、家族の要望などを伺い、家族と共に本人を支えていく関係づくりに努めている。また、通院対応などを通して、本人と家族の絆を大切にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人や友人などの面会、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めているが、新型コロナウイルス感染症予防の為、外出を自粛している状況である。また、面会に関してはLINE面会を取り入れており、遠方にいる家族や親族との関係が途切れないように努めている。対面の面会も10月中旬より一部解除し行っており、交流を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格などを考慮し、気の合う方と一緒に過ごしてもらえるよう努めている。話が弾む様に職員が間に入りながら関わり合いが出来るように努めている。孤立しないよう、その時々でテーブル席を替えてみたり臨機応変に対応している。また、日々の活動や全体での行事参加を促す等の対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても同法人の特養ホームに入所された方への面会、退所後の情報を得るなどして把握に努めている。また、家族に会った際には挨拶など声を掛けるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やケア、モニタリングを通して希望や要望、意向の把握に努めている。希望がわからない人や訴えの内容によっては、家族へ相談したり、ケース会議などで意見交換を行なうなどして本人本位となるよう努めている。	入居時に利用者や家族等から聴取している他に、日常を通しての思いや希望などは時間をかけて聞き出している。歌の好きな方・ニュース番組の好きな方には時間を工夫し視聴してもらい、それぞれの思いに応えられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との会話の中で聞いたり、利用していたサービス事業所やケアマネから情報を収集し、サービス利用の経緯、生活歴や暮らし方、嗜好などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや表情、会話、ケアの中で心身の状態を把握し、その日の状態に合わせて過ごしてもらえるよう配慮している。変化があった場合はケース記録に残し、現状の把握に努めている。また、身の回りの事や家事作業等を職員が一緒に行なう事で、利用者一人ひとりの能力把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族へ要望などの聴き取りを行ない、毎月のモニタリングを実施している。また、ケース会議で報告、意見を出し合い、必要に応じて見直しを行ない、それぞれの要望や意見を反映した現状に合った介護計画を作成している。	利用者が毎日楽しみを持った生活ができることを優先にした計画を作成している。月1回のケア会議では、利用者担当から日常の様子や気づきなどの意見を聞き、きめ細やかなプランにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや様子、ケアの実践や結果などをケース記録に残し、必要な情報は申し送りとして職員間で情報共有が出来ている。また、ケース記録を通して実践結果を検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の馴染みの理容師さんに来荘してもらっての散髪を行なっている。入居者の高齢化や、コロナウイルス感染症予防の為、外出や町内会の草むしりへの参加を自粛している。その為、地域の中において、心身の力を発揮する機会が持てない状況である。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関として内科と歯科の2医院を確保しているが、通常は本人、家族が希望する医療機関を受診している。また、通院時には情報提供表を作成、提出することでかかりつけ医との関係を築き、適切な医療を受けられる様に支援している。必要時には、職員の付き添いも行なっている。</p>	<p>利用者はかかりつけ医を主治医として通院は家族等が付き添い、遠方の方や緊急の時は職員が対応している。医師へは血圧や体温等の測定や状態を記録した情報を提供している。同法人の看護師は毎週来訪し体調を確認しており利用者・家族等の安心に繋げている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の配置はないが、法人看護師と連携を図っており、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきはケース記録に残し、週1回の法人看護師の訪問時に伝え、相談できる体制を整えている。更にその情報を待機の看護師と共有し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。特変があった場合には随時、報告、相談する協力体制を図っており、職員の安心にも繋がっている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した際、病院関係者（主治医、看護師、医療相談員）との情報交換を行ない、安心して治療できるように努めている。また、退院後も適切な支援が出来る様に情報交換を行ない、退院時に向けての状況把握に努めている。家族も不安に感じていることが多くある為、常に情報を共有できるように努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に本人や家族から重度化した場合や終末期のあり方について意向を確認している。重度化、終末期の指針を作成しており、その際には、事業所で出来る事の説明をしながら方針を共有し、法人看護師や医療関係者等と連携を図りながら、安心・安全に支援出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時に、重度化した場合の説明を利用者・家族等に行い理解を得ている。入浴が困難になってきた時や経口摂取ができなくなった場合には、医師から家族等への説明の他に他施設への移行の方向性も職員が併せて行っている。希望があれば終末期を家族と一緒に過ごせるよう配慮した看取りも行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人の防災計画に沿って救急蘇生法講習会へ参加し、繰り返し緊急時の対応について訓練することで、利用者の急変や事故発生時に備えている。また、事業所内で緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも見える場所に置いて活用している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災計画に沿って避難訓練を行ない、消防署の職員から指示や指導を頂いている。事業所単独の避難訓練の際には地域の住民の方々から協力を頂きことで協力体制を築いているが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、参加を自粛して頂いたが、運営会議の中で、災害時の避難方法や協力体制についての話し合いを行なっている。	防災計画に基づき同法人と一緒に想定される災害の避難訓練を行い、目標達成計画に沿って利用者の情報が記載された個人カードを首にかけて避難している。消防署のアドバイスにより、居室から避難済みの場合には職員がランプを点灯させ再確認の手間を減らし早期避難に結びつけて、利用者の安心・安全にも繋げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードケアを実践し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に合わせた言葉かけや対応に努めている。また、プライバシー保護についてのマニュアルを活用し、自らのケアについてを確認出来るようにしている。	職員は利用者の目線に立ち、常に穏やかな口調でわかりやすい言葉掛けを行っている。利用者への声かけ等については、強い口調や威圧的なことにもその都度注意し合い、職員同士や利用者とも良い関係を築いている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアに入る前に、本人に聞きながら自己決定できるように働きかけている。「はい」「いいえ」で答えられるように聞き取りを行ったり、自己決定がしやすい声掛けの仕方を意識して努めている。また、行事等に関しては入居者の意見を取り入れるようにし、参加不参加についても本人の意思を確認している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の入居者一人ひとりの意向やペースに合わせた支援を職員全員が心掛け対応している。突発的な希望や催し物があった際には、希望を伺いながら業務よりも優先し対応している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人からの希望・要望を聞き取りながら、天候などを確認しその日に合った服を自分で選んで頂いている。入浴時などにも自分の好きな服を選んでもらえるように声掛けし、身だしなみやおしゃれができるように支援している。化粧をされる入居者には継続して行なえるように化粧品の確認を行なっている。また、なじみの美容室へ出掛けたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者への嗜好調査や、本人が好きだった物を家族に聞き取りしたりする事で、一人ひとりの好みの把握に努めている。行事やバイキングの際には季節に合ったメニュー（普段はなかなか提供していない物）を提供し、楽しみを持っていただける様にしている。昨年度より引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策の為、食器拭き等の手伝いは中止しているが、自身が食べ終えたお膳は流しまで運んで来てくれている。	献立は食事係の職員と副所長が作成し、食材の買い出しは職員が行い調理は専門のパートの方や職員が交替で行っている。利用者の誕生日に併せて聞き取りし、好みのメニューを取り入れ皆でお祝いして喜んでいる。また、外注で弁当などを取り寄せて楽しい食事に行っている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの嗜好や禁食等に配慮し、日々の様子や身体状況から、1人ひとりの状態に合った食事形態、個人にあった食事量を提供している。また、摂取量をチェック表に記録し、適切な栄養や水分量確保に努めている。また、細目に水分を摂る様に工夫し、支援している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを促し、口腔ケアの徹底を図っている。なるべく自力で行って頂くように支援し、最後に職員が確認する様にしている。			
42	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄サインを見逃さず、個人に合った排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄する事で失禁の軽減に努めている。また、排泄チェック表を活用し個々に合わせた排泄のタイミングを把握する様に努めている。	一人ひとり排泄のパターンのチェック表を活用して、時間や回数に合わせ日頃からこまめに声掛けを行い、また入浴前には必ずトイレ誘導し、自立維持や向上に繋げている。失禁時には周囲に気付かれないよう、配慮した言葉掛けをしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用により、個々の排便状況を把握し、予防のために繊維質の多い献立や水分量の調整、適度な運動ができるように心掛けており、腹部マッサージ・オリゴ糖入りお茶ト、ウォシュレットでのマッサージ機能を使用するなどトイレで排便ができるようにしている。また、個人希望にてヤクルトや牛乳を提供している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望を伺い、「3日に1回のペースで入浴したい」等の要望があり、可能な限り希望に沿って対応している。また、その日の体調や気分に合わせて対応しており、入居者より「気持ち良かった」等の声が聞かれており、笑顔見られている。	入浴前はヒートショック防止のため、脱衣所や浴室を温めている。また、浴室や浴槽内に滑り止めマットを敷いて転倒防止や、安心して掴まることのできる手すりを設置し安全に配慮している。入浴剤を使い温泉気分を味わってもらえるような入浴支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日常の過ごし方や生活習慣を把握し、個々の生活パターンに合わせた休息、睡眠を取って頂けるよう、日中適度な運動等を行ない、夜間を中心にゆっくりと休んで頂けるよう支援している。また、居室の環境を整え、エアコンの活用もしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が1つ1つの薬を理解するまでにはいかないものの、個人ファイルに処方箋を保管し、いつでも薬の目的や副作用、用量や用法を確認できるようにしている。受診後に内服薬の変更が合った場合にはケース記録や連絡ノートに残し、情報を共有、その後の体調に変化がないか観察している。また、必要時には看護師への相談も行なっている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、これまでの生活歴や経験を活かして出来る事は積極的に行ってもらっている。個人の能力や希望を取り入れて、それぞれに役割（食後の片付け、裁縫、新聞紙たたみなど）を持って頂く様に支援している。また、日常的にレクリエーションや行事等によって、気分転換が図れるように取り組んでいる。散歩やドライブ等については、新型コロナウイルス感染防止の為、自粛している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の高齢化による身体機能低下や認知症の進行などにより、外出の機会が少なくなっている。個別に買い物外出などは可能な限り希望に添えるよう対応しているが、現在、新型コロナウイルス感染症予防として自粛している。また、家族と一緒に外食したり、自宅へ帰ったり、美容室へ行ったりしていたことも自粛している。	桜やふじの花の咲く季節の散歩や夏は夕涼み等に出かけたり、羽黒山にドライブに行ったりしていたが、コロナ禍のため自粛している。デッキに出て外気に触れ、日光浴をするなど外に出る機会を多くしている。近くの公園で保育園の子ども達が遊んでいるときには手を振るなどして互いに笑顔で応え楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状況に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、原則、個人管理としている。個人で財布を持っている方もおり、一緒に買い物へ行った際には支払いを行って頂いたりしている。管理が難しい方については、金銭出納帳に記入し、定期的に家族に報告を行うことで紛失やトラブルの防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をする事はないが、本人より訴えがあった際には、随時対応している。また、希望があれば職員が代筆対応したり自筆にて手紙を書き送ったりしながら、家族とのやり取りができるように支援している。また、LINE面会を開始した為、定期的に家族の顔を見ながら会話を楽しむことが出来る様に努めている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境チェック表を活用、環境整備を常に意識する様に努めており、毎日、職員が共有スペースの清掃を行なっている。季節の花を欠かさず飾ったり、季節に合わせた壁の装飾等にて、目を楽しませる工夫をしている。事務室と共有スペースの間にあったガラス戸を一部取り払う事で更に利用者職員との距離が近くっており、不快感や混乱を招くような刺激がないような空間作りに配慮している。	3ヶ月毎に1回事務所内の環境チェックを行い設備等の改善に努めている。エアコン・床暖房・加湿器を整備し、こまめな換気を行い感染症予防に配慮している。レクリエーションで作成した季節の物などをテーブル等に飾り季節感を楽しんでいる。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのある食堂スペースや、和室の畳スペースなど、利用者の気分に合わせて過ごせる複数の空間を設けており、自由に気の合った利用者同士で過ごすことができるように工夫している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、特に新品を購入する必要はない事を、本人家族に説明し、自宅で使用していた馴染みの物を使って頂けるよう支援している。居室については、個々が過ごしやすい様に、入居者本人と担当職員が相談しながら写真や家具等を配置し使用して頂いている。	居室にはベッド・押し入れ・洗面所を備え付けている。今まで自宅で使用していたタンスや衣装ケース・写真等を持ち込み、好みに合わせ自由に配置しているが、動線に注意しながら安全にも配慮している。掃除は職員が行っており清潔で快適に過ごせるようにしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れる様に手すりの設置やトイレの場所がわかりやすいように☺で表示し、自立してトイレに行けるようにしている。また、極端な模様替えや居室の変更等は極力避け、ベツメイクや衣類の整理等が入居者自身でも行なえる様に、配置を工夫している。			